

釧路湿原の河川環境保全に関する提言(要旨)

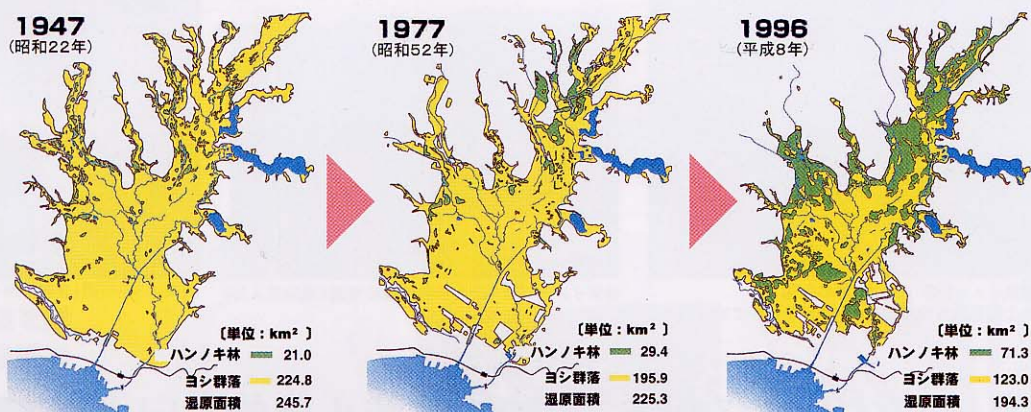
平成13年3月

I

現状と課題

釧路湿原は、我が国を代表する傑出した自然環境の一つで、野生生物の重要な生育・生息の場となっています。また、保水・浄化機能、遊水地としての洪水調節機能、地域気候を緩和する機能など重要な価値や機能を有しており、将来にわたって保全すべき貴重な財産です。近年、湿原面積が著しく減少し、湿原植生もヨシ・スゲ群落からハンノキ林に急激に変化してきています。このため、実践的な各種調査・試験を行い、早急に湿原の保全・回復のための対策に取り組む必要があります。また、流域住民や関係行政機関等の交流・連携が少ないのも課題です。

ハンノキ林
分布変遷図



II

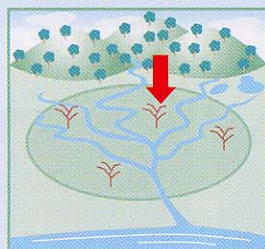
目標

釧路湿原の河川環境保全の長期的な目標として、ラムサール条約登録(1980)当時の環境へ回復することが望めます。しかし、湿原は現在も急速に変化し続けていることから、当面の目標として、現在の状況を維持・保全すべきで、このため流域及び河川からの負荷を少なくとも概ね20年前の水準に戻すことが必要です。

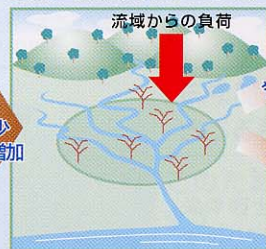
また、流域住民、関係行政機関等が、釧路湿原を軸として交流・連携を深められる地域・社会づくりのため、釧路湿原の適切な保全と利用のルールやマナーの共通認識をもつことが当面の目標となるでしょう。

保全目標についての流域と湿原のイメージ

●1980年代の状況

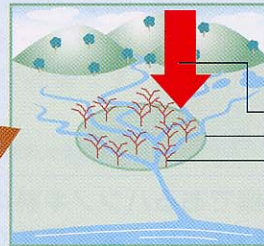


●現在の状況(2000年)

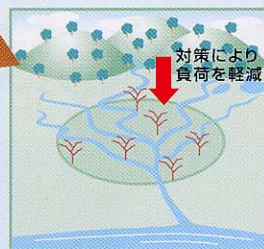


負荷の増加
湿原面積の減少
ハンノキ林の増加

●20年後の状況



さらに
・負荷が増加
・湿原面積が減少
・ハンノキ林が増加



湿原の現状を
維持する

- ↓ : 流域環境からの負荷の大きさを表す
- : 湿原環境の面積を表す
- : 流域環境の変化を表す
- : 河川環境変化(ハンノキ林)を表す